



ナラヲヨム

第16号2013年11月30日発行

発行者●ナラヲヨム発行委員会

発行責任者●佐昌弘

企画編集●奈良県立図書館情報部

Vol.16
2013.11

ナラヲヨム

ナラヲヨム

奈良で住む

暮らす

interview



奈良に住まい暮らすひとびとへ

「奈良でいきること」をインタビュする連載企画。

1回目はフランス人のピエール・レニエさん。

フランス語を教えるかたわら、日本の文献を

フランス語に翻訳している。

また、故郷のフランス・リール市に日本文化協会を設立。

代表として10年以上日本語と伝統文化の普及に務めた。

ピエール・
レニエさん

ある時なぜか妻が言った 「奈良へ行こう」と……

——まず、たいへん陳腐な質問から。なぜ日本に？

大学では日本語と日本文化史を学びました。宗教、特に仏教に興味がありました。そして、1993年に初めて日本に来ました。97年に「静岡世界翻訳コンクール」で優秀賞を受賞し、98年から1年間、東京の大法政大学仏教総合研究所で客員研究員として、真言密教を研究しました。

——真言密教ですか

そうです。密教は、仏教の中でもミステリアスですから。空海という人も謎の多い人ですね。その後、東京でフランス語教師をしていました。数カ月前から『古事記』の勉強会に参加しています。奈良在住の神宮さ

んのもとで勉強しているのですが、古事記には大和のことも出てくるので、奈良に住んでいる自分には面白いです。

——古事記も学んでおられる

仏教を勉強していましたが、神道はあまり知らなかったのです。仏教はインドで生まれたので、その思想は西洋とも通ずるところがあると思うのですが、神道は日本独特なもので、完全に別世界のことでわからない。でも神道は日本文化の根底にあるものですから、ぜひとも知らなければならぬと思っています。だから勉強を始めたのです。

——その後は

東京で日本人女性と出会い、結婚しました。その後、父が亡くなったこともあり、妻とフランスに帰りました。11年間、フランスにいたのですが、その間に2人子どもが生まれました。そして、再度、来日することにしたのです。最初は、妻の実家のある静岡に行こうと考えたのですが、妻はなぜか「奈良に行こう」と言いました。

——それはどうして

来日したのは2年前、2011年の夏なのですが、その前には東日本大震災と福島原発事故があり、その影響を心配したということもあります。静岡にも原発がありますので、そんなこともあって、私も妻も、もつと西へという気持ちがありました。それに元々、日本に住むなら歴史のある街に住みたい、と思っていたのです。





奈良町の古物商「我楽」(奈良市西新屋町17、不定休)で吟味。小さなキセルを手に「携帯用ですね…」とピエールさん

フランス語教師と翻訳と古民具ネットショップ

— ご研究が平安仏教なので京都の選択肢もあったのでは

京都も考えましたよ。でも、奈良に住んでみて、改めて思いますが、奈良は本当に静かでのんびりしていますよね。そこが奈良の良いところだと思います。今は奈良町の音声館の近くの、町家ではないですが、それなりに古い家に住んでいます。

— 奈良町での生活は？

まだ昔ながらのいい雰囲気が残っていますよね。家族でのんびり暮らすことができます。奈良に来たのは夏でしたが、うちにはエアコンは置かないことにしたのです。だから暑い。暑すぎて何もする気にならない日もあります。図書館を知って、本当に助かっています(笑)。またうちは古い家なので、冬はとても寒い。でも最初の冬は、長火鉢だけでしのぎました。寒かった。でも、秋はいいですね。気候が良くて長い。ほっとしますね。春も

いいけど短いので。そして、住んでいて思うのは、奈良の良いところは文化的な行事が切れ目無く一年中楽しめることですね。

— ところで、ピエールさんのお仕事についてです

今は、フランス語教師、翻訳業のほかに妻と古民具のネットショップを立ち上げました。

— 「古民具屋」ですね

そうですね。伝統的な職人技や心に惹かれます。そういうものは、やがて無くなっていくものでもあります。例えば、キセルをつくる職人さんは、日本にもう3、4人しかおられませんね。そういう無くなりつつあつて、捨てられてしまうもの、それがもったいないなと思うわけです。海外向けのネット販売なので、お客さんは海外の方です。正直、外国に送るのはどうかと思うこともありますが、日本では捨てられてしまうものでもあるのですね。

— 入手先は？

奈良の骨董店を見てまわったり、京都、東寺の弘法市などにも定期的に出向きますね。「捨てるのはもったいないから」ということでしたいたものもあります。

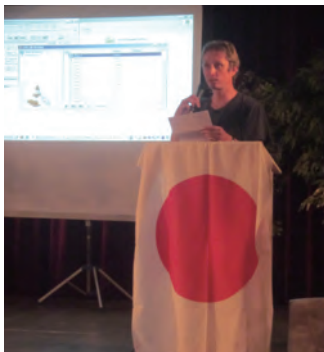
— どんなものを

キセル、櫛、衣服、置物、火鉢、器、古民具といわれるもので、自分たちが気に入ったものですね。

— 気に入ったものを売るといふのは……

時々どうしても売りたいものもありますよ。売ってしまった後後悔したり。でも普通は売れるとうれしいし、意外なものが売れて驚いたりすることもあります。

日本文化協会で東日本大震災後復興支援募金について報告(フランス・リール)



今夏、大峯山修行に参加したときのスナップ。「西の覗きはとても怖かった……」



大切な家族と奈良町でくらす

——奈良町は観光地として注目されています

でも、この界限も、どんな古い家が解体されて新しい家が建てられたり、更地になったりしています。もっと古い家を守る必要があると思います。それは、風景を守ることでもあると思うんです。

風景の構成要素(家もその一つ)の保存については、フランスの方がもっと厳しいです。街並みの美しさを守るためには必要なことだと思います。

—— だけど、近くに商店街もあるし、町の方々もフレンドリーなので住みやすいところだなと思っています。

—— ビエルさんにとって大切なことは？

そうですね。私にとっては家族が一番大事なので、基本、土日は仕事をせず、家族と過ごします。

ゆつくりとした時間が流れる奈良での、家族との時間は魅力ですね。そして、仕事は、自分で考え、自分が納得できる仕事をしたいと思っています。嫌いなことはしたくない(笑)。

—— 具体的には

例えば、翻訳ですが、最近の仕事では、パリの国立ギメ東洋美術館で開催される書道展の図録をフランス語に翻訳したり、観光関係の会社からの翻訳依頼など、文化関係のお仕事をいただいています。やはりこういう関係の仕事が続けたいと思いますね。もちろん、生活していくために、お金は必要です。フランスではあり得ないのですが、日本では教育にすごくお金がかかりますし。でも、自分のスタンスを守っていききたいなと思います。

フランス語は以前東京でもフランス語学校で教えていたのです。奈良では個人授業という形でやっています。生徒さんたちは奈良の人ですが、フランス好きの奈良の皆さんと、自分の国や文化について話すの



古民具屋

www.kominguya.com

※フランス語と英語のみ

フランス語個人レッスン

<http://narafuransugo.blog.fc2.com>

fc2.com

※日本語での連絡も可

休日の昼下がり、妻・佳栄さんとともに奈良町の小川又兵衛商店(奈良市鶴町8、TEL.0742-27-6611)へ

はとも楽しいです。異文化について知ることは楽しいことなので、よ。もっと多くの皆さんにフランスのことを知ってもらいたいですね。

飛鳥、春日山、立飲み お気に入りが増える

——奈良町以外でお気に入りのスポットはありますか

ます、飛鳥ですね。よく行きます。自転車でもまわります。ほかは、若草山に行く道ですかね。奈良出身の友達に教えてもらった、春日山原始林に続く道ですが、奈良公園の人混みを抜けて本当の自然の中を歩ける。フランスの実家の近くにも森があつてよく散歩していたので、故郷を思い出すからかもしれません。

あと、フランス人のぼくとしては、晴れた日はテラス(外)でちよこつと一杯飲みたくなるのですが、そんなところを見つけました。元興寺の向かいにある「小川又兵衛商店」で、世界遺産を前にのんびりビールや地酒を飲むのは最高です。

元興寺といえば、奈良に来てすぐに真言宗のお坊さんと友達になつて、今年の夏、大峯山に連れて行ってもらったんです。自然が素晴らしかった。「西の覗(のぞき)」での修行は怖かったです。奈良でしか経験できないことですね。天川村にもキャンプに行きましたが、まだまだ素晴らしい自然が残っているんだな、とますます奈良が好きになりました。

J R奈良駅前です。毎月末日曜やつている「奈良オーガニックマーケット」にもよく行きます。フランスではマルシェ(市場)で作る手から直接買物をする、というのはごく自然なことです。今、ぼくは奈良に住んでいるから、奈良の人が奈良で作っているオーガニックの野菜を買いたい。

——これからも奈良に住み続けたい?

奈良に来て2年、友達もできたり、家族みんな奈良を気に入っている。これからもまだまだ奈良の色んなことを知りたいですね。



カエデの学校へ ようこそ



The Maple World

奈良カエデの郷「ひらら」

今春、宇陀市菟田野・旧宇太小学校がカエデ園にリニューアルした。

校庭に植栽されたカエデは約千二百種 3千本。

収集量と希少品種数は日本一を誇る。

集めたのは矢野正善さん(78)。

大阪生まれ奈良育ちのカメラマンである。

カエデとの出会いは恩師・入江泰吉さんから

手渡された一株の苗。

たった一人で始めたカエデ研究は

人と人をつなげ、

やがて世界へと広がり、宇陀に結実した。





昭和初期に建てられた木造校舎は、かつては大勢の子どもたちをはぐくみ、今はたくさんのカエデを見守る。手前のカエデは「東紫（アズマムラサキ）」



「ガーデン」には 1200 種のカエデが並ぶ。カエデの見ごろは秋と知られているが、葉の色の変化が最も美しいのは、じつは春から初夏まで。あと 5 年もすればかなり生い茂って見応え十分になるはず



ノスタルジーを感じさせる旧小学校の建物内部



NPO法人宇陀カエデの郷づくりのみなさんの。のべ 100人が交代でカフェなどの運営にたずさわる。前列右から 2 番目が理事長 森本徳蔵さん



「桃源郷」と名付けられたカエデ。「園内にはほくが名付け親のカエデがいくつかあります」と矢野さん

それは一株の苗から始まった

NPO 法人 宇陀カエデの郷づくり

矢野 正善さん

大阪・天王寺生まれの矢野さんは、戦後、小学5年で両親と奈良・西ノ京に移住。「植物との出会いは子ども時分。父が家に庭木を次々と植えてね。でも世話はばく任せ(笑)。ああせい、こうせい言われながらしていました」

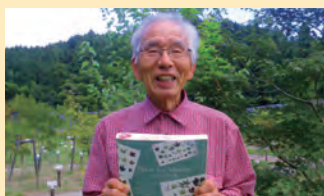
成人した矢野さんが選んだ職業はカメラマン。それも料理専門である。デジタルカメラや画像編集ソフトがない時代、料理の商業写真撮影には特殊技術が必要で、写真家の中でも料理専門は別格の存在だった。

『家庭画報』など一流雑誌での仕事をこなす多忙な日々の中、45歳で結婚。「ある時、師匠(入江泰吉)の家に行くと、お手伝いさんが成人の日のお祝いに奈良市から贈ら

れたカエデの苗があった。ところが彼女の実家は広島。困っておられてね。すると入江さんが居合わせたばく

に、持つて帰って。つて(笑)。もらったカエデをよく見ると、とても美しかった。それまでは魚釣りが好きだったけど、結婚を機に家でできる趣味を見つけようと思っていたから、これはいいやつて」

国内にカエデ専門の研究者がいなかったことから、仕事の傍ら独学で研究に没頭。始めの高価なコンピュータを購入しカエデを分類。ホームページが世に出ると早速独



『カエデの本』を手にする矢野さん。掲載写真はもちろん矢野さんの作品。書籍は園内のショップで購入できる

【矢野さんのブログ】

「カエデ見聞録」<http://ganshuku.sblo.jp/>

習してサイトを作成。すると世界中のカエデ研究者や愛好家たちが次々と矢野邸を訪れるように。03年には日本初のカエデのカラー写真集『カエデの本』(日本誠行会)を出版。出版のニュースは英国の

メープルソサエティでも紹介された。宇陀・菟田野に縁を得て、05年、収集したカエデ約千二百種と研究書などの書籍約一万冊を寄贈。11年、町の人々の力でNPO法人「宇陀カエデの郷づくり」が設立。この4月

「ひらら」が開園した。矢野さんは現在、旧校舎の教室を住居に改装した部屋に居を移し、カエデと共に日々を送っている。「自然の創造物には人知が及ばない美しさ、驚きがあります。今は自分の目がファインダー。なごみの世界を焼き付けています」と矢野さん。植物を思わせる穏やかな佇まいで語ってくれた。

奈良カエデの郷「ひらら」

宇陀市菟田野古市場 135-2

TEL & FAX 0745-84-2888

開園時間 10:00 - 16:00

定休日 月曜日 入園料 無料

アクセス 【自動車】西名阪針I.C.から約30分

【電車&バス】近鉄榛原駅より奈良交通バス菟田野行き約20分、古市場水分神社下車徒歩3分

URL <http://udakaedenosato.main.jp/>



The Maple World 



女人大峯 — 稲村ヶ岳 —

女人結界のある風景

県外の友人2人と山の話をしていて、私の発した言葉に1人はビックリし、もう1人には非常にウケたことがある。その言葉とは「女人結界」。2人とも、私がおく当たり前に「女人結界」という言葉を使うのが面白いと笑った。

奈良県の山には女人結界がある。大峯山は修験道の祖、役行者が開いたとされる修験の山である。昔から有名な女人禁制の山だが、今は「山上ヶ岳」だけが女人禁制となっている。そして、その山上ヶ岳に続く登山道に女人結界がある。結界と言っても、なんてことはない、石碑と木製の門が立っているだけである。

昔、役行者が大峯で修行をしている時、行者の身を案じて、葛城の里からはるばる尋ねてきた行者の母「白専女」と後鬼「妙童」が山に登ろうとすると、阿弥陀如来が現れ、

難行苦行を重ねる行者の修行を妨げないよう山に入るのを止めたという。行者の母は谷に庵をつくり、行者が下山するのを待った。それが母公堂である。昭和の初期までは母公堂の入口に大きな黒門があり、女人禁制の関所のようになっていたそうだ。現在、女人禁制エリアは縮小し、母公堂から先、大峯山遥拝所（清浄大橋）まで立ち入ることができる。

女人禁制の山は、明治初期まで、大峯山だけではなく高野山、比叡山をはじめ日本各地に存在したが、そのほとんどが、1872（明治5）年、明治政府の太政官布告により解いている。女人禁制が残っているのは極めて少ない。

女人禁制に賛否両論あることはさておき、ただ思うのは、この境界のある山の姿が「奈良・大和の歴史的风景」の一つに違いなく感じられる。



私の中では女人禁界も奈良の名所の一つ、という感覚になっている。実際この結界を見るために訪れる人もいるぐらいである。このように、人の思いが変わる中で、山を取り巻く環境も変わっていくのではないだろうか。

稲村ヶ岳の魅力

山上ヶ岳では女人禁制が維持されているが、その隣に「稲村ヶ岳」がある。

稲村ヶ岳は、女性信者の為の修行の場として1959（昭和34）年より開放されており、「女人大峯」と呼ばれてきた。標高1,726m以上、山上ヶ岳より高い。天川村にあり、奥駈道からは外れるが、山上ヶ岳から快適な稜線が続いており、女性に限らず、男性にも人気の山である。

本峰と大日山（たいにちやま）の2峰から成り、山上辻に山小屋「稲村小屋」が立っている。本峰の脇から槍の様に突き上げる岩峰の大日山は非常に特徴的で、その姿から、周りの山からも稲村ヶ岳を見つけるのは容易である。大峯の中でもアルペンのな姿をしていて、登山者の心を惹きつけてやまない。

本峰には展望台があり、ほぼ360度の展望が広がる。北方向には山上ヶ岳から竜ヶ岳、大普賢岳への稜線、南側には弥山から釈迦ヶ岳への稜線および頂仙岳への稜線。遠くに金剛、葛城山が見渡せる。素晴らし

い眺望なのである。私がそれほど女人禁界を超えて山上ヶ岳に登りたいと思わないのは、この稲村ヶ岳の眺望があるからかもしれない。

一方、大日山は特徴的な形の岩峰で、岩に貼り付くように鎖やハシゴを使って登る、行場のような登山道となっている。狭い山頂には大日如来と役行者を祀る二つの祠が立っている。山上ヶ岳大峯山寺の護持院の一つである龍泉寺では、ここを女人修行の道場として稲村ヶ岳女人道場修行の先達免状を与えており、多く

の先達が登山修行をつづけているそうだ。

稲村ヶ岳を下山すると、母公堂で堂守の方がコーヒーを出してくれた。2013年3月末で新しい方に代わられたが、温かいもてなしは健在。変わらないでほしいものも、ちゃんとする。

※土日祝のみ。平日はいらっしゃいません。

山遊びへ
↓
図書情報館 岡本



山頂から見る山上ヶ岳



大日山への急峻な登り



山上辻にある稲村小屋（冬季閉鎖有り）

● 編集後記

「四方に四神が鎮座するという奈良県は、いわば全域がパワースポット」だという。「パワースポットとは『呼ばれてようやく、行ける場所』で、『呼ばれる』とは『見えざる何かの働きかけ、第六感』と何かの評論で読んだ。

ピエール・レニエさんは奥さまの直感で奈良に移り住み、矢野正善さんは国内各地からのカエデ園設立の誘いにも、結局奈良の地に根を張られた。現実的には様々な事情が複合した結果だろう。しかし、お二人の「芯のある穏やかさ」が、何だかとても奈良っぽくて、きっと奈良に呼ばれはったんやな〜と思いを巡らせた。

(宮)

ナラヨム 第16号

発行

2013(平成25)年
11月30日

企画編集

奈良県立図書館
奈良市大安寺西1-1000
TEL 0742-34-2111(代表)
FAX 0742-34-2777

編集人

乾 聡一郎

CONTENTS

写真 岡本 真由美

P1-5

取材・文 乾 聡一郎

撮影 植村 和彦

P6-9

取材・文・撮影

宮川 ゆきこ

P1-9

レイアウト 井上 さとみ

P10-11

取材・文・撮影・レイアウト

岡本 真由美

発行責任者

乾 昌弘(株式会社明新社)

印刷

株式会社明新社

奈良市南京終町3-464

TEL 0742-63-0661(代表)

FAX 0742-63-0660

題字

紫舟

本誌の無断複写・複製・転載を
禁じます。

トピックス



ドイツ ベルリン カニジウス高校室内楽団交流演奏会 in NARA

2013年10月6日 2Fメインエントランス

カニジウス・コレク<ドイツのギムナジウム(高等学校)>室内オーケストラの日本ツアー最終公演が、図書館メインエントランスで開催されました。“高校のサークル活動”ということですが、毎年、優秀なオーケストラに許されるベルリンフィルハーモニー管弦楽団の本拠地での演奏会にも招待されるなど、腕前はセミプロ級です。

この日は、ヴィヴァルディ、バッハなどのバロックからモーツァルト、チャイコフスキー、グリーグといったロマン派、さらに、日本を代表する現代作曲家・武満徹まで幅広いレパートリーを披露。その実力に観客からブラボーの声が次々とかかり、熱気あるフレンドリーなコンサートとなりました。アンコールには、ヨハン・シュトラウス2世の「ピッチカートポルカ」ほか数曲を演奏。当館での30人規模の本格的なオーケストラコンサートは初めてでしたが、2時間におよぶ印象深い時間となりました。